

電子情報システム工学論 第一回課題

出題日：6/10 締切日：6/16

{課題1}

トップダウン型処理の例：「配達された手紙を切って見る際に、机上の切るものを探す」  
→ハサミなど切るものを探すとき、机上の他の勉強道具などは見えなくなる。

ボトムアップ型処理の例：「勉強してる間においしい匂いがして、料理をしようと思う」  
→勉強に集中していたが、ごはんに注意が移っている。

{課題2}

眼球が小刻みに高速で動く運動をサッケードといい、文章を読んでいて次の行に移る際など、対象を追うために意識的に行われることもあれば、動揺している際などに無意識的に行われることもある。Optomotor cycle とは、眼球の不随意運動であるサッケードを無意識にコントロールするものである。物を見ているときは基本的にサッケードが起こるが、固視、つまり視点が定まっているときはサッケードを抑制する。

{課題3}

幼児の共同注意の発達の「生態学的段階」は 6-9 か月であり、6 か月ごろの乳幼児は大人が対象物に対して向けた視線の方向を大まかに判断できるようになる。

「幾何学的段階」は 12 か月であり、9-12 か月にかけては幼児自身の前方視野内において大人が対象物に対して向けた視線の方向を正確に推定可能になる。

「空間表象的段階」は 18 か月であり、前方視野内だけでなく後方の対象物までも同定することができるようになる。